

植物は根から大半の水を吸収する。根には新鮮な酸素も必要。環境の厳しい所でも元気な植物は、暑さや乾燥の影響を受けにくい地中深くに根を伸ばしている。



根が乾くと、植物は最も大切な水を吸えずに枯れてしまう。しおれた時はすぐに、たっぷり水をやる。

水はシャワーのような葉水ではなく、土をしっかりとしめらせる。強い水は葉にはじかれて土まで届かず、茎や葉、花を傷めるだけ。

ポイント



重くなったね

土に水をしみ込ませるのが大切だニャ〜



プレゼント



海のミネラルが根の活力をアップするハイポネックス「いろいろな植物用サブリ」700g・788円を10人に。元肥にも追肥にも使え、花つき、花と葉の色を良くします。31日の応募要領で「7月号ガーデニング」係へ(7月末日必着)。商品提供=ハイポネックス ジャパン ☎06-6452-4187

水やりのコツを覚えるには、水やり前後の植木鉢の重さを体感することが大切。夏の水やりは、植木鉢の底からしたたり落ちるほどたっぷり。



ガーデニング



【夏の水やり】

ベランダや室内、小さな庭で、植物を上手に育てる方法をご案内します。まずは水やりの基本から。暑さが原因で、植物を枯らした...と思っている方は多いのでは? 盛夏に植物を上手に育てるコツは適切な水やりです。



夏を彩るピンカ。和名は日々草

夏に植物が元気をなくす原因の大半は、暑さより根が乾いてしまうこと。葉と根のバランスの崩れや間違った水やりなどによって、十分な水分が供給されなくなるからです。春に買った鉢花や花壇の花は、梅雨の間に茂り過ぎて頭でつかちになりがち。ヒョロッと大きくなり過ぎた植物は、梅雨が明けたら葉や枝を刈り込んで、真夏の日差しや乾燥に適応できるように、根と葉のバランスを整えることが肝心です。新鮮な水は根に大切な酸素も運びます。水のやり過ぎを恐れて葉を湿らす程度では、水も酸素も根まで届きません。上手な水やりのコツは...。

- 暑い時、大半の水分は根から吸収される。新鮮な水と酸素と養分を頻繁に与える。
 - 水やりの基本は朝か夕方だが、植物がしおれている時は、真昼でも、雨の中でも勇氣を持って水をやる。
 - 雨の日も水やりチェックは怠らず。小雨だと案外土まで水が届かず、枯らすことがよくある。
 - 葉を手でよけて、土(株元)にしっかりとかける。
 - やる時は鉢の底から水がしったり落ちるほど十分に。
 - 水温が高くなると酸素不足になるため、植木鉢や受け皿に水をためない。
 - ホースにたまった熱い水は流し、冷たい水をやる。
- いったん土を乾かすと、次に水やりをした時に水の通り道ができ、いくら水をやっても、その道しか流れなくなりです。乾かさず、ため込まず。「水やり3年」と言われる程、奥深いものです。